

消費で未来をかえる?!

～「社会の豊かさ」をつくる消費行動～



日時：2014年1月18日（土）15:00～17:30
会場：明治大学駿河台キャンパス リバティタワー1154 教室
参加実績：合計 75人（うち、学生42人）
主催：東京都生活協同組合連合会、生活サポート生活協同組合・東京、明治大学商学部柳沢ゼミ
後援：千代田区

▽	14:30	受付 東京都より若者向け消費者被害啓発DVD 放映
▽	15:00	開会のあいさつ 企画の骨子説明と本日のオリエンテーション 開催に至るまでのゼミの活動報告
▽	15:10	明治大学商学部柳沢ゼミ 2年生による発表《4グループ》
▽	16:00	実社会で活躍している人からの学生への応援リレーメッセージ
▽	17:10	明治大学学生からのアンサートーク 及び 会場からの質疑・意見交換
△	17:30	閉会のあいさつ

企画骨子

- 本企画は若者への消費者教育推進をめざし、生協と大学、行政が協力して取り組んだ新しい試みである。企画のメインは学生が『消費者市民社会』をテーマに学んだことを「Prezi」というプレゼンテーションツールを使って学生の感性と言葉で発表した。その発表を聞き、行政・生協や民間企業・NGOなど社会で活躍している大人たちから学生に応援メッセージを送った。学生は自分たちの発表に対してもらったメッセージにグループごとに「アンサートーク」を考え、発言し企画を終了した。
- 発表の前段階として事前に『生活サポート生協・東京』が4回のゼミでワークショップを実施した。
 - ①グループワークで現在の「労働」や「消費」を考える。
 - ②自分の消費行動を振り返り、自活に向けた課題、社会的な課題を考える。
 - ③社会の豊かさや現在と未来の暮らしを考える。『生活サポート生協・東京』からは機会と材料を提案し、学生自らが考え回答を出す、その過程が「消費者市民社会」につながるという取組みになった。

開催概要

■ 企画の骨子説明 生活サポート生協・東京

消費者教育推進法施行から1年が経過し、今後学校教育の中で「消費者教育」の取組みは進むと考えられる。しかし、今在学中の大学生は「消費者教育」にあまり触れる機会がないまま社会に出て行くのであるが、彼らこそが社会を担う世代である。

この企画に参加した明治大学の学生は「消費者問題」や「消費者市民社会」などをテーマに学んでいる学生ではない。彼らにこそ「社会の豊かさ」を考え、「倫理的な消費行動」に意識を向けてもらうことが大切である。

若者が社会や消費、暮らしについて考える機会をたくさんつくり、思い描いた未来に向けて行動できる人たちを増やす。そのために、自ら考え・行動する、身につく「消費者教育」を増やすことが未来をかえるひとつの方法だと考える。

■ 開会のあいさつ 開催に至るまでのゼミの活動報告 柳沢ゼミ2年 ゼミ長 加塩三和子さん

第1回 『ブラック企業を消費者問題の視点から考える』 2013年10月25日 21名参加
ゼミの代表者がハローワークに行き、「これは怪しい?!」と思う企業の求人票(21社分)を探してきた。さらに絞り込んだ求人票5社の中から、ブラック企業と思う企業を推測・評価し発表。

第2回 『7年後(東京オリンピック)の自分を考えてみよう』



～自分の消費行動を知り未来を考える～ 2013年11月22日 27名参加

各自で1週間分のレシートを持参し、表に書き込んで自身の消費行動を把握。自己評価をし、これからの目標に向けて現状分析をした。夢実現へのために何をしたらいいか考える機会に!

第3回 ワークショップ『身近なことから現在と未来の暮らしを考える』

2013年12月13日 23名参加

DVD『徹底解剖100円ショップ～日常化するグローバリゼーション～』を見て感じた「私たちにできること」付箋書き出し、模造紙に貼る。グループワークを行い、意見や考えを発表した。フェアトレードバナナ(バラゴン) & チョコ **VS** 100円ショップのバナナ & チョコの食べ比べ

第4回 ワークショップ『社会の豊かさって?!～私たちにできることを考える～』

2013年12月20日 21名参加

書き出した付箋を元に、グループワークで模造紙に貼り出し・分類・見出し付け・ストーリー作り。発表に向けた準備。

■ 明治大学商学部柳沢ゼミ 2年生による発表《4グループ》

◆ **エコ** 「消費のあり方について」

不景気から低価格が求められ、労働条件が悪いブラック企業を生むことに。消費者として「必要なものを最低限買う」「生産者価格に見合った商品を買う」ことが必要。



◆ **おぐもん** 「今の社会は豊かであるか」

現代の日本は豊かではないと考える。しかしさまざまな課題を改善し、日本のよさを発揮していけば不景気を反転させるチャンスはある。社会の豊かさはこれから実現可能!



◆ **グリーン CLUB** 「商品を見定める目」

私たちにできること... フェアトレードなどのメリット伝える、知ってもらう。いかに我々若い世代に認識させるかが課題。商品を見定める目を消費者がもつ必要がある。



◆ **じゃけえ** 「私たちの消費行動について」

商品の背景を見ることで... 価格だけではわからない価値を見極めることが大事。行動一つ一つが社会の豊かさをもたらすかも。「私たちの消費で未来をかえましょう!」



■ 実社会で活躍している人からの学生への応援リレーメッセージ

- | | |
|--------------------------|-------------|
| ① 明治大学商学部 | 柳沢敏勝教授 |
| ② 千代田区区民生活部区民生活課長 | 細越正明氏 |
| ③ 松山油脂株式会社 代表取締役社長 | 松山剛己氏 |
| ④ 特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド | 事務局次長 田中梨佳氏 |
| ⑤ パルシステム生活協同組合連合会理事長 | 山本伸司氏 |



登壇者の方達からは、今の社会状況の中で若い人たちに伝えたいことをそれぞれの経験、生きてきた中で学んだことなど様々な切り口から若者へ、メッセージとして伝えていただいた。

これからの社会で生きていく学生へ、自身で判断していくことが大事であること。そのために学生のうちにたくさんの方の意見を見聞きし、色々な経験を積んでいくことが必要であること。世代を超えて、消費者市民社会... 「社会の豊かさ」を一緒に考えていきたいという熱いメッセージは学生の心に響いたようだった。

■ 学生からのアンサートーク

4グループからそれぞれの代表が、応援メッセージをもらったことに対し感じたこと、この企画に取り組み学んだことなどを学生の言葉で表現をした。

アンケート
回答より

- ・ 消費者の視点からフェアトレードやブラック企業を考えるだけでなく、生産者の立場から考えることで、これからの消費活動で「選ぶ」ということをしっかり行っていきたいと思った。
- ・ 理想を持った大人と若者のよい交流の機会となった。また、若者には消費者とは何か、市民とは何か、に気づく機会となったのでは。
- ・ 今まで聞くことができないような貴重なお話を聞くことができ良かったです。私たち学生の発表を聞いて、アドバイスを下さる機会になってとても参考になりました。